

ひろば

大代

平成四三五  
大代公民館

卒業を目前に

大代町



「梅一輪、一輪程の暖かさ」嵐雪

酷しい寒さもやっと峠を越し、其処彼処の日だまりでは、もう確かな春の足音を感じます。

さて、早くも3月に入り卒業を迎える8名の大代中学生、すばらしいクラブ活動や文化活動、スポーツ活動に立派な業績を残し、敬老会を初め文化祭郷土のお祭り、或は都市交流会など地域の活性化にも随分と貢献して頂きました。

先日中学校を訪れ、皆さんの一口感想文を寄せて頂きました。

- (1)自治会 氏名
- (2)進路について
- (3)趣味・特技
- (4)こんな大代町にしたい
- (5)その他・なんでも



- (1)四日市 森田竜士
- (2)高校↓大学↓就職(公務員)

✓就職(公務員)

- (3)趣味は音楽鑑賞、映画鑑賞、釣りが大代にしてほしい。
- (4)働く所がたくさんあり、活気があ
- (5)町民運動会で来年も参加したいのでとても楽しい種目を考えて下さい

- (1)本郷 山根和人

- (2)大田高校↓理数系の大学↓就職

(公務員)

- (3)読書、考える事、将棋、囲碁、数学
- (4)今のままがいい！

特に(緑が多くて、静かな町)

- (5)田植囃子は大変だったけれどやって良かったと思う。これからも続けてほしい。僕はこの大代町にずっといるつもりです。

- (1)山田 渡利勝彦

- (2)高校で卓球を頑張って、大学に行きコンピュータ関係の仕事をしな
- (3)いろんなスポーツをする事や音楽鑑賞をすること。

- (4)希望は大代ゴルフ場が大規模にな

り、レジャー施設のある活気のある町になってほしい。

- (5)町民体育大会、盆踊りなど町が主催の行事がとても楽しかったです。

- (1)上飯谷 竹内美紀

- (2)高校を出て短大に行けたら行って保母さんになりたい。
- (3)音楽を聞くこと。

- (4)人口がもっと増えたらいいと思う

- (5)文化祭など町内の人達が一丸とな

ってやっている所が素晴らしい事だ

と思うのでこれからも楽しい行事を続けてほしいと思う。

- (1)八反田 三宅生真

- (2)普通科の高校↓芸術関係の大学↓就職(旅行会社に勤める)

- (3)絵をかくこと、あみ物

- (4)私達が大きくなって都会に出て、大代町に帰って来た時にすごく楽しくてうれしくて心がなごむような町

にしてほしい。

- (5)夏にある盆踊りなどとても楽しかったです。これからも楽しい行事を守っていてほしい。

- (1)下市 森 干晶

- (2)迹摩高校に行つて理美容学校に行

って、へアー関係の仕事に就きたい。

(3) 音楽を聞くこと。

(4) 緑がたくさんあって、その上レジャー施設などがあるといい。

(5) 文化祭の展示物や、カラオケ大会などおもしろかった。

(1) 柿田 山下陽子

(2) 高校を出て公務員になりたいです。

(3) 音楽鑑賞など。

(4) 明るく活気のある町にしてほしい。

(5) 町民運動会や文化祭など楽しかったです。これからも参加したいと思います。

(1) 下市 渡 和美

(2) 普通科を出て大学に行つて、薬剤師になりたい。

(3) 音楽を聞くこと。

(4) 活気があって、若い人がたくさんいる町。

(5) 町民運動会は、小さい頃から出ていてとても楽しかったです。また、水色で優勝したいです。

贈 大代中学校卒業生に

— 人間としての価値は —

公民館長 田辺 孝

大代中学校三年生は卒業していく。

一歩前進おめでとう！

君達は、今の自分の生命の輝きを忘れてはならぬ。君達の思念、努力、精進、実践すべて——。未来の自分の血肉となることを忘れてはならぬ。また時には立ち止まって人間の人間たる価値についても考えてみる必要がある。

第一は、自分の頭でものを考えることだ。わからない点があったら、どこまでも疑問をもつことだ。「何故か？」と、そして、わからないことは「わかりません」と、はっきり言うことが人間の価値を高める第一歩だ。

人間としての価値を低める第一歩は盲従だ。

第二は、宗教的反省力だ。

自己の弱さや矛盾にめざめることが大切だ。つまり他人を責めるよりも前に自分を責める人間を、私は価値のある人間だと思っている。

第三は、奉仕の精神を持つことだ。

社会のためと、大きく考えなくても、自分の仲間や隣近所の人のために、それとなくつくそうという親切心が大切である。自分の野心や虚栄心のための

奉仕ほど醜いものはない。

第四は、思いやりの深さである。

お互いに弱い人間同志として、その点で思いやり深くあることが人間の価値である。ひとりひとりになると、みな気が弱くて孤独なのだ。その時の気持ちを察しあうところに人間愛がある。

第五は、ひとつの技術に精通することだ。どんな職業でもいい。そこでの技術に精通し、その点で腕があるというところが、人間の価値を決定する。

この五つは平凡なことだが、しかしこれを心に誓ったならば、いかなる人間もおそれる必要はないし、劣等感を抱くこともあるまい。私はこれが人生コースの基本ではないかと考える。

苦難の道を悠々と

明るくほほえみ 大空仰ぎや

見ゆる未来の 希望峰

ぼくも私も進むぞ また今日も

ふる里を愛する人へとなって、今後大いに大成されることを祈念する。

「夜八時の人たち」

ひろば編集委員長 高崎 脩

毎月六日の夜公民館に灯がついてぞ

の下でひろばの編集を行って来ました  
毎月十五日の締切りを目標に記事を  
集め編集する作業により、この二ヶ年  
間一二九号から一五二号として皆様の  
手元へ届ける事が出来ましたのも、一  
重に町民の皆様及び寄稿者の方々のお  
陰と喜んでいきます。

文字に表す事は仲々苦手としたもの  
ですが、いざ活字になると誰しも自分  
の書いたところへ目が向くのが当然だ  
と思います。そこには頭をひねった甲  
斐と喜びがある筈です。

ひろばの編集は田辺館長さん、橋本  
昭二さん、小笠原恵巧さん、後藤マサ  
エさん、松井主事さんに小生の六名を  
メンバーにこの二年間努めて来まし  
たが仲々うまくその役割りが果たせず反  
省しておりますがしかし、毎月休むこ  
となく発行出来たことは唯一の成果と  
自負しています。このようなものは長  
続きに兎角懸念が生まれるものでは  
公民館の館長はもとより松井、横田の  
ご兩名の熱意に支えられていると言っ  
ても過言ではありません。

広報についてはその役割り、条件、  
体制、内容といろいろあるようですが

時には原点に返り乍ら次号の編集に当  
る事もしばしばありました。

このところ世の中が様変わりをして  
きました。が町民の皆さんは大代の地を  
愛し、天の恵に感謝し、人とのふれ合  
いを大切に行っている事は共通の宝物で  
あると信じます。これからも町内の出  
来事は勿論私達が歩んで行く灯の一つ  
ともなり、子供から老人に至るまでの  
福祉社会造りのお手伝いともなり、又  
次の世代へのバトンタッチの一助とも  
なる「ひろば」を念願しながら新年度  
へ引き継ぎたいと思っております。

ほんとうにご協力頂き改めてお礼申  
し上げます。これからも振るって積極  
的にご寄稿とご批判を頂きますようお  
願い申し上げまして任期満了に当り、  
所感の一端を述べさせて頂きました。

#### 八反田自治会の今昔

八反田自治会長 中垣昌文

八反田自治会の前身は、大正七年六  
二十五日、八反田部落農会の積金講と  
して発足しているが詳細等は不明であ  
る。その後大正十五年一月に大家村青  
年団八反田支部で、縄講積金が安田暉

好氏を世話人に会員八名で発足し毎月  
二十五日に開かれている。

この青年団八反田支部が、戦時中出  
征兵士を送る時使った国旗が今も保存  
されており、毎年の自治会年始会に使  
っている。先に大正七年発足の積金講  
が昭和二年一月に昭和講と改称し、全  
十二条から成る規約を作り、詳細に取  
り決め、後藤龍市氏を代表理事に他に  
理事三名、世話人二名、会員十五名で  
運営している。

当時は毎月一月、四月、十一月各二  
十日の年三回とし昭和六年十一月二十  
日をもって満講と決めている。

その後昭和七年に青年団の縄講を合併  
して昭和二十年頃迄毎月開かれていた  
ようである。その間、昭和十六年二月  
二十二日より昭和婦人講が世話人に中  
垣音市氏会員八名で発足している。

戦後途切れていたのを昭和二十八年  
三月二十五日代表理事藤原安太郎氏以  
下、理事二名、書記二名、会員、二十  
八名で八反田親睦会積金講として全十  
四条の規約のもとに再発足して以来、  
平成四年の今日迄毎月二十五日ひと月  
も欠かすことなく続けている。

積金講とは会員がそれぞれ自分に似合っただけの株を出資し各自が必要に応じて生活資金として貸借をし部落内の者が助け合いながら生活を共にし情報の交換をしたものである。参考までに発足当時の一株の掛金は編講積金三銭、昭和講二元、婦人講二元、親睦会積金講百円、現在千百五十株で年間積立総額百三十八万円である。

その後経済状態が良く成り昭和五十年より各自の貸借がなくなり毎月の積立金を農協の積立貯金とし、十二月に満期金を各自ボーナスとして受取り年末資金の一部に当てる様にした。その間自治会の連絡事項を伝えると共に税金、年金、共聴料、学校給食費外各種負担金等の集金を行う様に成った。

自治会員の互助精神から始まったこの会が、七十三年後の今も尚、継続されてこられた事を誇りに思う。特に今年は長年の宿題であった集会所も皆さんの協力のお陰で完成し、この集会所を拠点に今後も更に伝統を守って行きたい。尚、発足当時よりの事は安田暉好氏より聴取したものを、記録は小生宅に保存してあったものを参考にしたものである。

のである。

### 福祉弁当の声



高齢者福祉をすすめる会

福祉弁当を通じて心を通わせたい念願のもとに一月より給食を始めましたことはご存じの通りです。第一回は一月十九日、第二回は二月二十三日に実施しました数は二十二個から二十四個となっております。

さて大代町高齢者福祉をすすめる会に於きましてお配り致しました弁当の評判は如何やと、去る二月の連合自治会の席上、各自治会長さん（福祉委員）に聞いてみましたのでその声を発表してみたいと思います。

全体的に喜ばれており、お世話に感謝するというものであります。

- ◎大変手の込んだ料理でした。
- ◎夕食を楽しみに待っていました。
- ◎味が大変良く見た目も美しい。
- ◎折角の心配につきじんぎに貰った。
- ◎喜んで頂き感謝しています。
- ◎弁当を通じて直接会話もしたい。
- ◎次回の日が入れてありよかった。
- ◎手作りの味は格別である。
- ◎一人暮らしに楽しさが出来ました。

- ◎待っていました三百円を準備して
- ◎包み紙のメッセージは大変良い。
- ◎タクアン迄刻んで心配りが有難い。
- ◎福祉委員の方や婦人会の方に申し訳ないと思います。

以上のような言葉が返って来ております。公民館の調理場でも直接弁当作りの婦人会の皆さんがあんな、そんな声や批判を次回の給食に生かせるよう努力を致しております。

まだ 寒さが続くと思いますがご自愛下さいませ。これからも熱いお茶でごゆっくり夕食を楽しんで頂きたいと思っております。町内の皆様もどうぞご理解とご声援を頂きますようお願いいたします。



おしらせ

◆赤ちゃん誕生

おめでとうございます。

柿田 谷口俊二さん あかねちゃん

直美さん

◆社協大代支部から

本郷 熊谷政子様より

香典返しに替えて金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。